

第2回「日本語体験コンテスト in ジャカルタ」 の様子が新聞に掲載されました！

2015年10月5日(月) じゃかるた新聞

The Daily Jakarta Shimbun

2015年(平成27年)10月5日(月曜日)

即興スピーチで日本へ

日本語体験コンテスト

第2回日本語体験コンテスト in ジャカルタ(共立国際交流奨学財団主催)が3日、中央ジャカルタのサリパンパシフィック・ホテルで開催され、34人が参加した。予選を通過した12人が思い思いの「日本」を語り、入賞した5人に日本の大学やスカイツリー、浅草などを巡る7泊8日の

「夢・日本体験賞」が贈られた。

コンテストは日本語を学ぶアジアの人たちの支援を目的に韓国で18回開いてい



シティさん



アユさん

るほか、中国、ベトナム、ミャンマー、タイ、カンボジア、マレーシアで実施、インドネシアでは昨年に続き2回目の開催。

その場で与えられた三つのテーマから一つを選び、即興で3分間のスピーチをする。真っ先に手を挙げたのはレンタカー会社員

のシティ・ローマーさん(23)。「日本人の考え方」をテーマに日本人相手に車を手配する体験談を発表し、入賞した。

プカシ県の日本語学校に勤めるアユ・アスマラ・デウィさん(21)は、「ロボット」のテーマで入賞。「ごみを取るロボットを作



ランダさん

りたい」と熱弁した。

「『住めば都』というところわざを知っていますか」で始まるスピーチで観客を引きつけたのは、ピヌス大学日本語学科のランダ・アルキ・プリマワンさん(23)。このほか、ボゴールの大学生アイシャ・マウリナ・ザハラさん(22)、



アイシャさん



ナディアさん

会社員ナディア・フィトリさん(25)が入賞した。実行委員長の菊川長徳・共立国際交流奨学財団理事長は「日本を見て来て、日本を好きになって、留学のきっかけになれば」と話し、来年以降もコンテストを開催していく方針だ。(木村綾、写真も)